



まゆ たま 堀越家を見守る新春の『繭玉』

～昭和30年以來、一家に“幸”よぶ縁起物～

昔はあちこちで見られたという『繭玉』。もちや鯛、米俵などを模した飾りを枝に施し、新春の風物詩として、豊作などを祈る縁起物のひとつです。1月中旬ごろ、農家を中心に飾られていたそうですが、堀越勇さん（北野）のお宅では、昭和30年ごろから、昭和天皇陛下が崩御された前後を除き、毎年座敷に飾っています。ことしは特に、昨年一家の仲間入りをした曾孫の健康を祈り、いつもより願いを込めて“マンサク”の木の枝に、たくさんの飾りをつけました。毎年、勇さんと奥さんのミイさんが、先祖に感謝し家族を思いながら一つひとつ飾るこの繭玉。「先代から受け継いだ縁起物。これのおかげが毎年米もよくできる。家族も幸せで、こうして私もあさんも元気でゲートボールをさせてもらっています。」と、話す勇さん夫婦。

その若々しい笑顔が、一家の幸せを象徴しているようでとても印象的でした。



岩室村の人口
(13年12月28日現在)

■男 4,817人 (-10) ■女 5,224 (-4) ■合計 10,041人 (-14) ■世帯数 2,816 (+2)